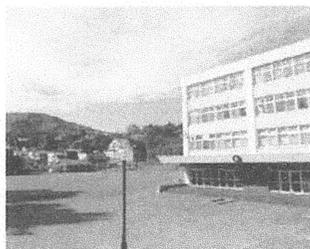


令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：小樽地区
- 2 事例報告学校名：小樽市立奥沢小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 佐藤 裕司
- 4 キーワード：地域の人材と資源を生かした教育活動の推進

1 はじめに

小樽市奥沢地区は、小樽の中心部に近い場所にあり、小樽市の水道のルーツである「奥沢水源地」の完成から100年近く小樽市の発展と市民の生活を支えてきた歴史がある。そのような土地柄により校区は昔から工業で栄えた地区である。本校は明治28年3月に私立緑小学校として設立され、明治32年から奥沢尋常小学校となり、そして、昭和22年に奥沢小学校と名を改め、現在に至る。また、平成30年4月に小樽市の公立小中学校適正配置計画により、奥沢小学校、天神小学校、入船小学校の3校が統合され現在の奥沢校区となった。昔から地域の教育に対する関心が高く、地域の方々の温かいまなざしとサポートで教育活動がスムーズに推進できている。



2 地域とつながる学校の教育活動

(1) 地域ボランティアによる読書活動の充実

本校の子どもたちの読書率が低い現状にあった。学校の図書室にもなかなか立ち寄らず、本に親しむことなく読書離れが進んでいた。そういった現状から学校運営協議会(CS)にこの現状を相談し、図書室を活気あるものにしたいと校舎前にポスターを貼って、CSの委員の皆様の手助けをいただき地域ボランティアを募集した。活動内容については、主に図書環境整備に係るもので、読み聞かせ(R7年度年間3回)や図書室の整備、本の補修を行っていただいている。

令和7年度10月現在では、ボランティア実施回数33回を数え、のべ58人の地域の方にご協力いただいた。また、本年度は6月に本校の体育館を会場として市立小樽図書館と連携してブックフェスティバルを開催し、市立小樽図書館から運び込まれた千冊の本を会場一面に並べ、子どもたちは自分のお気に入りの本を選び、読書活動に親しんだ。このような地道な活動から子どもたちが学校の図書室に足を運ぶ数も増え、読書率の向上につながっている。



(2) 教科と関連を図った地域素材を生かした総合的な学習の時間等の取組

本校の校区には昔からたくさんの工場が設立され、地場産業として根付いている。そういった地域資源を生かすべく、中学年で小樽市教育委員会が発行している副読本「私たちの小樽」を使用し、社会科の時間で地域の学習をした後、地域で盛んな複数の工場を訪れる学習に取り組んでいる。各見学場所に子どもたちが複数班に分かれて訪問し、地域で作られる遊具や靴等のゴム製品、学校の給食で使われるパンの製造の現場に出向き、工場長や現場の担当者から様々な貴重な情報を得ることで学習を深化させている。



また、学習したことを学習発表会等で市内の他の公共施設等を訪れた学習の成果とともに発表している。

このことは、高学年や中学校へ続くキャリア教育の系統的な学習として重要な学習となっており、地域人材や資源を巻き込んだ有意義なものとなっている。



(3) 中学校区の小・中教職員の交流を受けての地域や保護者を巻き込んだ取組

小中一貫教育を進める上で、校区内の中学校との連携を図り、数回にわたり今年度の取組や過去の取組を交流する機会を管理職・担当教諭で今年度当初に改めて設けた。その際、数年前に中学校の学校花壇の取組で地域の方々に呼び掛けたところ、最初は少なかった地域のご協力が現在ではそれを楽しみにしている方々も多く、自然発生的に人数が増えていった成功体験を聞くことができた。本校でも、地域や保護者の方々に広く声をかけ、学校運営協議会(CS)のご協力のもと学校の教育活動の一つにできないかと検討を重ね、保護者や地域の方々に巻き込んだ花壇活動や学校の周辺ゴミ拾いを計画した。

今年度は、本校でも花壇づくりを地域や保護者から参加希望者を募り、集まった人々と子どもたちとで共に楽しく作業をした。また、学校の周辺のゴミ清掃にも大勢の方が参加し、子どもたちは地域の人々と一緒に活動する機会と喜びを得ることができた。



(4) 地域の一大行事に学校として参加し地域を活性化させる取組

小樽市では毎年、8月下旬に3日間にわたって「小樽潮まつり」が開催されている。これは地域最大のイベントで、小樽の夏の風物詩として次世代に歴史や文化を引き継ぐことを目的とした祭典である。祭典の2日目は小樽市内の多くの企業や幼稚園・学校等が梯団を組み、潮練りこみに参加することが恒例となっている。本校でも、市教委と連携し6月に全校児童を対象に、潮練りこみの踊りの指導者をお招きし講習を受けている。そして、本番には奥沢地区の小・中学校教育の一環の取組として児童生徒・保護者の中から希望者を募り、約100人程度の梯団を組み、海への感謝と小樽の発展を願って作られた「潮音頭」や「潮踊り唄」のお囃子に合わせて街を悠然と練り歩いた。多くの地元の方々や観光客から沿道より沢山のご声援をいただき、一人一人がお祭りに溶け込み踊りを楽しんだ。本年度も市内の全小・中学校が参加し、企業等も合わせると71梯団の参加となっている。この活動を通して、「ふるさと小樽」を大切に思い、みんなと一緒に郷土を盛り上げ、貢献しようとする意欲が子どもたちについてきている。



3 おわりに

本年度の学校評価(R7年度保護者用)で、「家庭(地域)の連携について」の項目で肯定的な回答が98.2%と学校の取組に高い理解度と信頼を得ている。奥沢地区の方々の心温まる支援と教育への情熱等から本校の教育は推進されており、地域の宝である子どもたちの成長を今後も地域と連携して推進していこうと考えている。